

2024年度

リフォームスタイリスト資格試験

1級 参考問題

<解答>

※（ ）内は、『リフォームスタイリスト資格試験1級・2級公式テキスト 住宅リフォーム実務知識 第2版』において、問題テーマに関連する頁を示します。

監修：一般社団法人 日本ライフスタイル協会

第1問 1、5 (テキスト p12~17)

- 1：ご要望をヒアリングする際は、曖昧な記憶のまま進めることのないよう、必ずメモを取る。メモを取る姿勢は、お客様への印象や信頼関係にも影響する。
- 5：「概略プラン」「概算費用」は、あくまでもリフォーム工事の方向性を確認し、お客様に次の段階の「設計契約」を取り付けることが目的なので、詳細まで煮詰めた内容でなくてよい。

第2問 ア：1、イ：1、ウ：1、エ：2、オ：2 (テキスト p17~20)

- エ：建設業法ではなく「労働安全衛生法」が正しい。
- オ：家電リサイクル法で規定されている4品目については、工事業者ではなく「施主」の責任で処分する。

第3問 ア：1、イ：2、ウ：1、エ：1、オ：1 (テキスト p16~17、40~43)

- イ：消費者がクーリングオフについての書面を受領していない場合、消費者はいつでも無条件で解約でき、工事完了後であっても無償での現状回復（リフォーム工事前の状態に戻すこと）の請求ができる。

第4問 ア：2、イ：3、ウ：3、エ：2、オ：1 (テキスト p54~59)

第5問 ア：1、イ：2、ウ：2、エ：1、オ：2 (テキスト p68~72)

- イ：平行にしてではなく、「直交させて」が正しい。

ウ：木片（ストランド）ではなく、「ひき板（ラミナ）」が正しい。

オ：壁下地として 12.5mm、天井下地として 9.5mm が一般的である。

第6問 ア：3、イ：1、ウ：2、エ：3、オ：1 （テキスト p54、73～75、101～103）

第7問 1、4 （テキスト p82～85）

1：「VU管」と「VP管」が逆であれば正しい。

4：設問の内容は、「自己サイホン現象」という。

第8問 ア：3、イ：1、ウ：3、エ：3、オ：1 （テキスト p90）

第9問 ア：1、イ：2、ウ：1、エ：1、オ：1 （テキスト p93～95、140～141）

イ：給湯能力（号数）の数值は、何リットルの水を1分間で 25℃上昇させることができるかを指す。したがって、24号とは「24リットル」の水を1分間に「25℃」上昇させる能力となる。

第10問 3、5 （テキスト p97～100）

3：工場で組み立てるのではなく「工事現場」で組み立てるシステムである。

5：「洗い落とし式」と「サイホンゼット式」が逆であれば正しい。

第11問 ア：2、イ：1、ウ：2、エ：1、オ：1 （テキスト p104～107）

ア：屋根は軽い方が耐震上有利である。

ウ：上下階の耐力壁の位置を一致させ、直下率を高めた方が耐震上有利である。

第12問 4、5 （テキスト p108～110、120）

4：木造住宅で最も一般的に行われている簡易的な地盤調査は、SWS試験（スクリーウエイト貫入試験）である。

5：8m程度までではなく、「2m程度まで」が正しい。

第13問 2、3 （テキスト p124～128）

2：「一次エネルギー」は、石油・石炭・天然ガス・原子力・水力・太陽光・風力など自然界から採れるエネルギーのことである。電気や都市ガスは、一次エネルギーから変換・加工されたエネルギーであり「二次エネルギー」と呼ばれる。

3：数值が大きいほどではなく、「数值が小さいほど」が正しい。

第14問 ア：3、イ：2、ウ：2、エ：1、オ：2 （テキスト p129～139）

第15問 1、3 (テキスト p145～153)

1：不慮の溺死・溺水は約2割ではなく、「約4割」が正しい。

3：途中に踊り場がある階段の方が、直階段より安全といえる。

第16問 ア：2、イ：2、ウ：1、エ：1、オ：1 (テキスト p145～157)

ア：小上がりの和室に腰かけて移動するには、リビングより「40 cm程度」高くした方が移動しやすい。

イ：水平手すりの高さは「75 cm～80 cm程度」が標準である。また、必ず標準の範囲におさめるといったものではなく、今回の高齢者が使用しやすい高さを確認したうえで計画を進めるとよい。

第17問 2、4 (テキスト p160～176)

2：かつては溶剤系の塗料が多く使われていたが、現在は人体の健康への影響が少ない水溶性の塗料が多く使われている。

4：記述の内容は、エフロレッセンスではなく「チョーキング現象」である。

第18問 ア：2、イ：2、ウ：1、エ：2、オ：2 (テキスト p193～194)

第19問 1、4 (テキスト p102、111、114～117、180、200、257)

1：旧耐震基準ではなく「新耐震基準」が正しい。

4：最初の3桁は「幅」、後の2桁は「高さ」を示している。

第20問 ア：1、イ：2、ウ：3、エ：2、オ：3 (テキスト p206)

イ：売価 = $1400 \div (1 - 0.3) = 1400 \div 0.7 = 2000$

ウ：粗利益額 = 売価 - 原価 = $2000 - 1400 = 600$

エ：粗利益額 = 売価 × 粗利益率 = $2000 \times 0.35 = 700$

オ：原価 = 売価 - 粗利益額 = $2000 - 700 = 1300$

第21問 ア：2、イ：1、ウ：2、エ：1、オ：1 (テキスト p219～231)

ア：準防火地域での増築工事は、床面積に関係なく建築確認申請が必要である。

イ：既存部分の床面積の1/2を超える増築の場合、すべての部分に現行法が遡及される。設問文では100 m²の1/2、すなわち50 m²を超えているため、すべての部分に現行法が遡及される。

ウ：内装制限を受ける場合、壁と天井の仕上げは準不燃以上が必要となるが、防火材料ではない合板下地に不燃認定壁紙を張っても内装制限を守ったことにはならない。

エ：住宅の居室は床面積の1/7以上の有効採光面積が必要となる。すなわち、有効採光面積×7が最大の床面積となる。設問の条件では3 m²×7=21 m²が最大の床面積であるため、法令上の基準を満たしている。

第 22 問 1、5 (テキスト p221～222)

1 : F☆☆☆ではなく「F☆☆☆☆」が正しい。

5 : 増築部分はシックハウス対策が必要となる。既存部分については、通気が確保できる建具で一体化される場合は必要、通気が確保されない建具で仕切る場合は不要となる。

第 23 問 3、4 (テキスト p236～245)

3 : 火災時の安全に関するのではなく、「劣化の軽減に関すること」が正しい。

4 : 等級 2 は等級 1 の「1.25 倍」、等級 3 は等級 1 の「1.5 倍」の耐震強度を有する。

第 24 問 2、4 (テキスト p246～248)

2 : 5 割ではなく「3 割」が正しい。

4 : 二酸化炭素は、炭素として木材の中に固定され、燃やさない限り放出されない。したがって、木材は建築資材としての積極的な活用が推進されている。